



## ◆事業概要

### 1 中学校区の現状と課題

新しいことへの挑戦や自分の思いを伝えることを苦手として、誤解から互いに傷つけ合ってしまう児童生徒がいます。また、人権課題を自分の問題として捉えられず、決めつけた見方をしてしまう児童生徒がいます。さらに、厳しい家庭環境におかれ、自尊心が高められない児童生徒もいます。

そうした子ども達に適切な支援ができるよう、幼小中の連携はもとより家庭や地域とともに、子どもの理解を深め、支援のありようについても考え、取組を進めていくことが必要です。

### 2 課題解決のための主な取組

#### (1) 幼稚園と小学校合同「稲作体験」

5年生が園児を励まし、楽しく会話しながら取り組むことで、自信を持って稲作に取り組むことができました。また、小学生は園児から親しみや憧れを持ってもらうことができました。

地域住民は、園児や児童に真剣に向かい合い、支援することで自尊心を高めようと考えました。子ども達は、感謝の気持ちや人を想う温かい心等、人が生きていくために必要な力の源となる様々な資質を蓄積することができました。



稲刈りの様子

#### (2) 中学校「お弁当の日」

食への感謝、自立への手助けをねらいとして、食が育む温かい家庭、子ども達の未来を地域ぐるみで考える「お弁当の日」に取り組みました。年間3回、全校生徒が自分でお弁当を作ってくる日を設定しました。自立について学ぶだけではなく、将来、家族を持ったときに「食」を通じて家族を思いやるというところまで視野を広げて考えることができました。さらに、生徒の中には、保護者や地域住民に認められることで、自尊心や授業に対する意欲が高まりました。



生徒のお弁当

#### (3) 小学校「読み聞かせ・学習支援」

地域ボランティアの「赤まるボランティア」が、定期的に読み聞かせや、英語の読み聞かせ、学習支援を実施しました。継続した取組によって、ボランティアとのつながりが深まり、子ども達は意欲的に取り組むことができました。

読み聞かせについては、本に興味を持たない児童も、とても楽しみにしていました。また、英語の読み聞かせについては、学年にあった英語の絵本の読み聞かせをしました。高学年では、話の内容に沿った質問を英語で行い、学習した英語を使って答える児童も多く見られました。

「赤まるボランティア」は、隔週の水曜日に、各学年に分かれ、算数の計算問題を中心に支援をしました。子ども達は、計算の間違いが少なくなり、自信を持てるようになりました。



赤まるボランティアの支援の様子

## ◆実践を振り返って

地域住民の学校教育に対する理解と協力が定着している校区の特長を活かし、子ども達と行事等を一緒に取り組む活動を、頻繁に実施することができました。このことにより、子ども達の達成感や取組に対する前向きさが醸成されたと考えられます。

また、小学校での読み聞かせや学習ボランティアの取組が、読書や予習復習の習慣化につながりました。今後も、取組の方向性を校区の子ども達の成長に即した形で進めていくことが重要であると考えています。